

# 解体建廃の処理で物流改革、 長野市に中間処理拠点

◎ (株)カワサキ商会、(株)カワサキ環境

全国的な解体工事増と新築工事減という建設市況の将来見通しを受けて、今後の排出増が想定される解体系の処理を主眼に、首都圏では建廃流通を抜本的に見直す傾向が出始めている。従来の限られたスペースでの機械・手作業併用の分選別では、多種多様で管理型物と安定型物の複合材も多い解体建廃の取扱いに限界がある。そこで、東京近郊の中間処理または積替え保管施設では重量物と資源物だけを下ろし、残りは地方の広い敷地の施設に搬入し、時間とスペースにゆとりを持ち、細かい品目別に丁寧に分選別することで、解体建廃の安定流通と処理費の著しい高騰を抑えようという取組みだ。

産廃収集運搬の(株)カワサキ商会(千葉県市川市白の出21-1-643、川崎秀樹会長、☎047-369-6126)はグループ新会社の(株)カワサキ環境(長野市信更町桜井683、☎026-290-3210)を通じて、長野市内に中間処理施設「リサイクル館」を開業した。市郊外の約7100㎡の敷地に建つ延床面積約3000㎡の建屋内に、破碎、選別、圧縮・結束などの機器装置と展開・積替え保管ヤードを設けた完全屋内型施設だ。既設の中間処理施

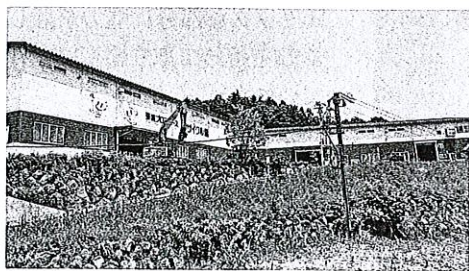


長さ80mの選別ラインを備える

設を同業者からM&Aで取得したもので、総処理能力は日量254.8t。4000㎡以上の保管が可能だ。処理品目はゴムくずを除く安定4品目と木くず、紙くず、繊維くずとなっている。選別ラインは全長80mに及び、トロンメル、風力選別機、手選別コンベヤ、磁選機等で構成し、高い精選別・リサイクルシステムを確立している。

現地は長野自動車道更埴インターから13.5kmに位置し、関東、甲信越、北陸、東海からのアクセスが可能だ。長野県は群馬・埼玉・新潟・富山・岐阜・静岡・愛知の8県に隣接し、産廃の集荷と処理後物の搬出拠点として期待される。

カワサキ商会グループは首都圏を中心に収集運搬を手掛けるカワサキ商会、積替え保管と大型輸送のカワサキ物流(埼玉県春日部市、渋谷光博社長)、総合コンサルティングのカワサキ総合研究所で構成してきた。今回のカワサキ環境による中間処理施設の稼働で、産廃のコンサルティングから収集運搬、処分までの一貫処理の受注体制を可能にし、排出事業者に安心・安定のワンストップサービスを提供していく。現在、40歳代でカワサキ環境の新社長に就任した川崎秀樹カワサキ商会会長は「内製化後もコスト負担は変わらないが、事務の簡素化と産廃の取扱量の増加を期待している」と語っている。



リサイクル館の外観